

KYOBI
京都美術工芸大学

TASK
京都伝統工芸大学校

京都工芸繊維大学・京都市立芸術大学・京都美術工芸大学
三大学協定展を期間中に開催

10月10日(金)～11月3日(月・祝)
鴨川七条ギャラリー

シンポジウム

日本の伝統工芸の価値と
その21世紀的意義を求めて

2025年
10月10日(金)
13時～18時

入場無料

会場 京都美術工芸大学東山キャンパス
南館3階 KYOBIホール

主催 一般社団法人TAKUMI-Art du Japon
京都美術工芸大学、京都伝統工芸大学校

協力 京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学

後援 京都府 京都市 公益社団法人日本工芸会近畿支部 申請中

シンポジウム
公開配信



シンポジウム
現地参加
予約フォーム



日本の伝統工芸の 価値と その21世紀的意義を 求めて

価値観が大きく変わりゆく現在、改めて日本の伝統的思想の価値を見極め、その真髄を時代の流れの中で将来に継承していくことは、日本人のアイデンティティーを確かなものとする上で極めて重要である。そこにおいて工芸は極めて重要な地位を占めている。このシンポジウムは、われわれが失ってはならない価値とは何か、それが現代社会で生きて継承されるためには、どのような努力が必要かについて、分野や世代を超えた工芸の担い手によって徹底的な議論を行うことを目的として、(一社)TAKUMI-Art du Japonと京都美術工芸大学及び京都伝統工芸大学校の共同企画として開かれるものである。

プログラム

■ 開 会 (13:00～) ※開場・受付開始は12:30から

■ 開 会 挨拶
竹脇 出 (京都美術工芸大学学長)

■ 趣 旨 説 明
近藤 誠一 (TAKUMI-Art du Japon 理事長)

■ 文化庁ご挨拶

■ 第一部 「伝統の価値」を改めて問う (13:15～14:00)
～日本として失ってはならない価値は何か?～

登壇者

内田 篤呉 (MOA美術館長)

宮本 貞治 (重要無形文化財「木工芸」保持者、京都美術工芸大学特任教授)

モデレーター

近藤 誠一 (TAKUMI-Art du Japon 理事長)

■ 質 疑 応 答 (14:00～14:10)

■ 第二部 「実践者が語る市場参入の秘訣」(14:10～15:10)
～世界に通じる「表現」を支える日本の技と美意識は?～

登壇者

近藤 高弘 (陶芸家)

須藤 拓 (金属工芸作家)

西久松友花 (アーティスト)

石井 聖己 (プロダクトデザイナー/SEIKI DESIGN STUDIO)

モデレーター

秋元 雄史 (東京藝術大学名誉教授)

■ 質 疑 応 答 (15:10～15:20)

■ 休 憩 (15:20～15:30)

■ 第三部 「作品について思いを語る」 (15:30～16:00)
～三大学協定展出展者から～

■ 総括セッション (16:00～16:30)

■ 交 流 会 (16:40～18:00) ※会場:南館1Fカフェテリア

京都工芸繊維大学・京都市立芸術大学・京都美術工芸大学
三大学協定展

会 場 京都美術工芸大学 鴨川七条ギャラリー

会 期 2025年10月10日(金)～11月3日(月・祝)

時 間 平日 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

土日祝 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

観覧料 無料

出演者プロフィール



内田 篤呉 (うちだ とくご)

1952年生まれ。慶應義塾大学卒。美学博士。専門は日本工芸史。九州大学客員教授、慶應義塾大学、東京藝術大学などの非常勤講師を歴任。公益社団法人日本工芸会常任理事、文部科学省文化審議会、ユネスコ世界文化遺産、無形文化遺産、静岡県文化審議会、経済産業省産業構造審議会などの各種委員を歴任。MOA美術館・箱根美術館館長。



宮本 貞治 (みやもと ていじ)

黒田乾吉氏(木工芸作家黒田辰秋氏(人間国宝)の長男)に師事。独立後、滋賀県湖西に工房を構え、創作活動を行う。日本伝統工芸近畿展、日本伝統工芸近畿賞ほか5回受賞、日本伝統工芸展、第50回展記念賞ほか4回受賞、伝統工芸木竹展、文化庁長官賞ほか4回受賞、その他受賞多数。滋賀県指定無形文化財技術保持者。紫綬褒章受章。重要無形文化財保持者(人間国宝)。



近藤 誠一 (こんどう せいいち)

東京大学卒業。1972年外務省入省。駐米公使、OECD事務次長、広報文化交流部長などを経て、2006年ユネスコ日本政府代表部特命全権大使。2008年駐デンマーク特命全権大使、2010年文化庁長官。現在国際ファッション専門職大学学長、TAKUMI-Art du Japon 理事長。仏レジオンドヌール・シュバリエ章、瑞宝重光賞など受賞。『近藤誠一全集』I、～、IX巻。『日本の匠』ほか、著書・論文多数。



近藤 高弘 (こんどう たかひろ)

1958年生まれ。高校・大学時代は卓球の日本代表として活躍。1985年から陶芸を志し、オリジナル技法「銀滴彩」を生み出す。2003年にエディンバラ・カレッジ・オブ・アート修士課程修了。主なパブリックコレクションにメトロポリタン美術館、ギメ美術館など多数。Inglis Allen Masters賞、京都美術文化賞など受賞多数。



須藤 拓 (すどう ひらく)

1979年大阪府生まれ。2000年京都伝統工芸専門校(現京都伝統工芸大学校)卒業、2022年Japan Craft 21日本伝統工芸再生コンテストクラフトリーダーに選出、2023年個展(銀座一穂堂)、2025年第54回日本伝統工芸近畿展「松下幸之助記念賞」受賞、2025年第72回日本伝統工芸展「日本工芸会新人賞」受賞。



西久松友花 (にしひさまつ ゆか)

1992年京都府出身。2016年京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻卒業。2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器修了。主な個展にRESIDENTS OF GOKURAKU(75Varick Street/USA,NY)(2025年)、ART&CITY AWARD presentsシエリアタワー中之島グランプ(2023年)、群馬青年ビエンナーレ2025ガトーフェスタハラダ賞(2025年)など受賞多数。

©Takeru Koroda



石井聖己 (いしい せいぎ)

1986年、京都府出身。2009年Stanford University / ME310 Project (USA)、2012年京都工芸繊維大学大学院デザイン科学専攻修了。京都を拠点に活動しており、国内外の様々なクライアントと協働し、戦略開発からアウトプットまで一貫してサポートしている。iF DESIGN AWARD、Good Design Award / GOOD DESIGN BEST 100、その他受賞多数。



秋元 雄史 (あきもと ゆうじ)

1955年生まれ。東京藝術大学名誉教授、金沢21世紀美術館特任館長、台南大学栄誉教授、美術評論家。東京藝術大学美術学部卒業。ベネッセ・アートサイト直島アーティスト・ディレクター、金沢21世紀美術館館長、東京藝術大学大学美術館館長・教授、練馬区立美術館館長を歴任。主なプロジェクトは、直島・家プロジェクト、工芸未来派展、ジャポニズム2018『井上有一』展、北陸工芸の祭典GO FOR KOGEI等。



京都美術工芸大学

〒605-0991 京都府京都市東山区川端通七条上ル

TEL: 075-525-1515

URL: <https://www.kyobi.ac.jp/>

JR・近鉄・地下鉄「京都」駅より徒歩約15分、バスで約7分

京阪「七条」駅下車、6番出口すぐ

デザイン: 上村実咲 加納奈都